

子どもから大人まで、夢中になる…省エネボードゲーム!!

マンカラ

mancala

マンカラ (mancala) は、アフリカや中近東、東南アジアにかけて古くから遊ばれている、伝統的なゲーム。
遊び方は、全世界で百種類以上。ルールは簡単! 子どもから大人まで楽しめる。
されど、奥が深いゲームなのでハマること間違いなし!!

■商品セット内容
●ボード(本体) 51cm×13cm×4cm
●石(DX:おはじき 53個 ※予備5個含む)
(BASIC:ビー玉 54個 ※予備6個含む)
●解説書 ●サイコロ1個 ●白玉2個
※木材を使用したハンドメイドの商品のため、
キズや黒跡、へこみがある場合があります。
あらかじめご了承ください。

マンカラ (ベーシック版)
51-250 ￥2,478円(本体: ￥2,360)
ベーシック版はポケットの形が円柱型。
石が“ビー玉”で取りやすいです!!



マンカラ (スーパー DX版)
51-260 ￥4,683円(本体: ￥4,460)
スーパー DX版は、ポケットの石がより
取り出しやすくなっています。
石は宝石のような輝きをもつ、
特殊なドーム型の“おはじき”です。

オリジナルアイテムつき!



■ご注文・お問い合わせは…

公益財団法人日本レクリエーション協会 サービスセンター
TEL:03-3265-1335 FAX:03-3265-1585 e-mail:info@shop.recreation.jp
〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-20-7 水道橋西口会館6F
※送料一律945円(合計10,500円以上の場合は送料無料)



郵便はがき	
料金受取人払郵便	1 0 1 - 8 7 9 1
神田支店 承認	5 0 5
2850	東京都千代田区三崎町2-20-7 水道橋西口会館6F (財)日本レクリエーション協会
差出有効期間 平成24年9月30日まで (切手不要)	Reccrew 編集部行 Rec-site01

フリガナ			男・女
お名前			歳
ID番号			
ご住所 電話番号	〒	都道府県	
	TEL	FAX	
Eメールアドレス			
保有資格 (チェックしてください)	☐ レク・インストラクター ☐ レク・コーディネーター ☐ 福祉レク・ワーカー ☐ 余暇生活相談員 ☐ 余暇生活開発士 ☐ グループレク・ワーカー ☐ 余暇開発士		

●右の説明をお読みの上、番号でご記入ください。

1. よかった記事 ・()理由

みんなで作る、Rec-site 皆様のご意見をお聞かせください。

レクリエーション支援者への情報提供として本誌をより活用していただくため、皆様のご意見をお寄せください。
お待ちしております!

1. Rec-site01の記事の中で、良かったものを1つ、以下から選んで左の記入欄に番号をお書きください。また、その理由もお書きください。

1. 学生が、「あそびの日」を通して学べること。
2. 東日本大震災の復興に、レクリエーションは欠かせない。
3. Rec-site INTERVIEW
ギブアンドテイクの関係を越えて。
4. 子どもの課題や保護者のニーズに合わせた
「丁寧なサポート」が魅力の、発達支援施設ホームーズ。
5. 震災時に求められる、介護福祉支援とレクリエーションとは?
6. “つながる楽しさ”が、高齢者を呼ぶ。
吉原小宿のよしわら食彩サービス。
7. 作ろう! 遊ぼう!! 楽しもう!!! 簡単、楽しい! 紙コプター
8. わたしのレク・スタイル「一緒に楽しむ」と楽になれるんです。
9. 施設見聞録 目指すは、テーマパークのような介護施設!
—デイサービスセンターかいこや
10. 食を楽しむ・食で楽しむ ふるさとの味もつチカラ。

2. 今後、Rec-siteで取り上げてほしい記事やテーマなどがございましたらお書きください。

Rec-site

平成23年8月1日発行

発行所 公益財団法人日本レクリエーション協会
〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-20-7 水道橋西口会館6階
電話 (03) 3265-1852 (企画・広報チーム) 電話 (03) 3265-1335 (購読係)

発行人・小西 匡 編集人・浅野 祥三

定価 504円
(本体480円+税5%)

Rec Online ●あそび情報の扉・日レク公式サイト
http://recreation.or.jp

レクリエーションの現場●レクサイト

Rec-site

2011, August
Vol.01



ガンバろう 東日本!

特集

ホスピタリティ

Rec-site INTERVIEW

ギブアンドテイクの関係を越えて。

宮子あずさん

震災時に求められる、
介護福祉支援とレクリエーションとは?

“つながる楽しさ”が、高齢者を呼ぶ。
吉原小宿のよしわら食彩サービス。

作ろう! 遊ぼう!! 楽しもう!!! 「簡単、楽しい! 紙コプター」

施設見聞録 目指すは、テーマパークのような介護施設!
—デイサービスセンターかいこや



- 01 アソビのチカラ
 学生が、「あそびの日」を通して学べること。——山口浩二
 東日本大震災の復興に、レクリエーションは欠かせない。——井上孝之

03 特集★ホスピタリティ

- 04 Rec-site INTERVIEW◎宮子あずささん
 ギブアンドテイクの関係を越えて。



- 07 子どものRec-site
 子どもの課題や保護者のニーズに合わせた
 「丁寧なサポート」が魅力の、発達支援施設ホームーズ。

- 10 介護・生活支援のRec-site
 震災時に求められる、介護福祉支援とレクリエーションとは？

- 13 地域のRec-site
 “つながる楽しさ”が、高齢者を呼ぶ。吉原小宿のよしわら食彩サービス。

- 16 作ろう! 遊ぼう!! 楽しもう!!!
 簡単、楽しい! 紙コプター



- 18 わたしのレク・スタイル
 「一緒に楽しむ」と楽になれるんです。
 ——山内直子さん



- 20 施設見聞録
 目指すは、テーマパークのような介護施設!
 ——デイサービスセンター かいかや



- 22 食を楽しむ・食で楽しむ
 ふるさとの味がもつチカラ。
 ——財団法人 農村開発企画委員会



24 気になる・使える情報源 Site' Scope

発行人／小西 亘 編集人／浅野祥三 発行日／2011年8月1日

発行所／公益財団法人 日本レクリエーション協会
 〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-20-7 水道橋西口会館6階
 企画・広報チーム TEL.03-3265-1852 FAX.03-3265-1245 e-mail: rec@recreation.or.jp

企画・編集／(株)キュリオス デザイン／(株)アニー・デザインオフィス 印刷／(株)パイカ

著作権法上で認められた場合を除き、無断で本誌からの複写(コピー)は禁じられています。
 ©日本レクリエーション協会 2011年

専門学校福祉リソースカレッジ広島は、古代安芸国の政治文化の中心地であったといわれる広島県安芸郡府中町に、平成7年4月、介護福祉士養成施設(2年課程)として開校しました。数年後、学生から「歴史ある地域と学校の交流に、レクリエーションを活用できないか」という声が上がリ、平成16年に「全国一斉あそびの日キャンペーン」の参画が実現。今年で8回目を数えますが、苦労も多ければ学びも多い貴重な恒例行事となっています。

本校では学校行事のとき、2年生全員が実行委員として企画・運営に当たるのですが、あそびの日は、学生全員が運営側。本当に大変ですが、やり遂げた後の達成感がある、卒業後の介護現場でのレクリエーション活動の企画や運営にとっても役に立つなど、貴重な体験となっています。あそびの日の企画・運営については、テキストにある市民を対象とした事業の展開の手順に従って、企画段階・準備段階・実施段階等の各段階で取り組みます。

“企画段階”では、翌年のあそびの日に向けて1年生全員が参加。すでに経験した2年生にアドバイスをもらいながら、グループワークによりあそびを考えます。ここで学べるのは、他人の意見を否定しないで考えれば(ブレインストーミング)たくさんのアイデアが出ること、全員の意見を尊重することの重要性。出た案は、実行委員がチャレンジ系、競技系、クラフト系、昔あそび系等に分類し、あそびの内容に偏りがないうように徐々に絞り込んでいき、行事の輪郭が出来上がります。

次の“準備段階”は2年生になってからで、1年生にも行事の目的や内容が伝えられ、全学生の担当が決定。最終的に運営できるよう、1年生の意見も取り入れながら実施方法やルールのアレンジ、安全管理、

必要物品等を具体的に決め、全体像が見えてきたら通行人を引き付けるための工夫(フリーマーケットやもちつき等)、チラシやポスターの作成及び掲示・配布の依頼等の広報活動、イベント全体を盛り上げるための様々な学習活動へと発展します。

そして“実施段階”では、乳幼児から高齢者まで、幅広い年齢層の方たちに臨機応変に対応していかなければなりません。対象者によって実施方法をアレンジし、誰もが楽しめるような工夫もあちこちで見受けられます。あそびそのものが持っている楽しさを伝えるとともに、地域の皆さまと本校学生の交流が見られるなど、現場は笑顔でいっぱい。ここ数年聴覚に障がいのある方が毎年来られますが、学生が苦労しながら手話であいさつしたりルール説明をしたり、手話を実践する重要な機会にもなっています。

“整理段階”では、来年もよりよいものになるよう学生も教職員もしっかり反省し、伝統として受け継がれていきます。その結果、毎年多数の卒業生が来場してくれるので、ちょっとした同窓会のような感じです。また先輩と後輩、教職員との情報交換の場として、在校生にとっては就職活動のきっかけにもなっています。

このように学生の主体的な取り組みが地域交流となり、その後の授業や施設実習、ボランティア活動等の積極的な参加へと導かれます。特に府中町社会福祉協議会主催の夏祭りでは、4年ほど前から学生が企画・運営するあそびのコーナーを設けていただき、あそびの日が一過性のものではなく、さらなる地域交流や子どもたちの自立支援となり地域でアクションを起こす、というレクリエーション・インストラクターの役割を再認識することができました。あそびの日は、本校の学生にとって教科書にはない貴重な体験ができる学習の場として定着しているのです。



学生の声

●2年生実行委員の頑張る姿を見て、来年は自分たちが…という実感がわいてきた。

●地域の人たちと交流することの楽しさと重要性を学ぶことができた。

●障がいのある方、小学生、高齢者とふれあうことにより、いろんな人との接し方を学ぶことができた。

アソビ の チカラ

やや古い言い回しになるかもしれないが、レクリエーションは“人々の生きる喜び作り”である。

震災から100日を過ぎ、避難所で生活される方の数も少なくなってきた。先日訪れた岩手県宮古市田老地区では、10mの防潮堤を越えた津波に襲われた家々も、ほとんどが基礎部分だけを残して片付けられていた。たくさんの瓦礫も人手と時間があれば撤去できる。

しかし、大きなストレスを感じた子どもの心はまだ傷ついているかもしれない。災害を体験した子どもの心のケアには、保護者やまわりの大人が様子をしっかりと観察し、体験した恐れや不安を理解しながら、温かく丁寧に関わっていくことが必要である。大人は子どもへ無理を強いることなく、子どもの言葉に耳を傾け、寄り添っていくことが大切だ。

避難所生活では、子どもが遊ぶスペースは十分に確保できていない。しかし狭い場所でも、身近なものを使ったクラフトや絵本の読み聴かせによって、子どもの心は癒されていく。その場合、絵本の選定にも配慮したい。震災を想起させず、夢のある勇気づけの絵本を選びたい。

また広いスペースがあれば、レクリエーション・ゲームを取り入れることもできる。「いわて子どもあそび隊」では、被災した沿岸部の子どもたちを内陸に招いて、周囲に遠慮せずに遊び込めるような取り組みも行われている。この場合も、会場の選定や遊びの内容に配慮したい。例えば、数集まりのゲームでは“余り”が楽しさにつながるが、子どもが安心感を得ることができるように、誰も“余らない”よう全員を割り切れる数にしておくことをおすすめする。同様に、いす取りゲームでも、座れた子どもだけで進めるのではなく、1つの椅子に2人で座ったり、膝の上に座ってもいいことにすれば、座れない子が出ることもない。緩やかな緊密感に加えて、自分にもできるという思いにつなげ、ハッピーエンドで終われるよう配慮してい



岩手県宮古市田老地区の様子。

たい。

遊びが楽しければ、自然と笑いが起こる。様々な困難を強いられた子どもでも、遊びの一瞬一瞬の笑顔に偽りはない。笑いがストレスを解消し、自然治癒力や免疫力の強化を促すことはよく知られている。少なくとも笑っている瞬間、子どもは嫌なことを忘れているだろう。心の傷を癒すには、ゆったりとした時間、安心して過ごせる場、人の優しさが必要である。そして、本来子どもの持っている力で子ども自身が元気になるように働きかけ、支えていくことが回復への手がかりとなる。つまり、子どもをエンパワメントするのはレクリエーションである。

今後、仮設住宅の整備に伴い、新たな課題も見えてこよう。独り暮らしや高齢者の見守り、居場所づくり等、人が生きていくためには人との関わりは欠かせない。ここでも様々な支援の視点は必要である。毎日が“非日常”の生活に、生き生きとした活動を通して生きがいづくりを支援すること。これこそ明日をよりよく生きようとする、レ・クリエーション(生活の再創造)であり、レクリエーションは“人々の生きる喜び作り”なのである。

笑顔のない復興はない。とりわけ、子どもの笑顔は不可欠である。大切なものは人の命であり、子どもの笑顔である。レクリエーション支援者には、今後の被災地の様々な局面でのニーズを理解し、一人一人の専門性が発揮されることを期待している。



特集 ホスピタリティ

ホテルや商店などの接客業でよく使われるホスピタリティという言葉が、最近さまざまな業態で注目を集めています。

歓待、心のこもったサービスなどと訳されるこの言葉ですが、日本語にするなら、昔から言われている「もてなし」「思いやり」。

遊びも労働も数字で換算されるこの時代に、利害を超えた「もてなし」や「思いやり」を、人々が求めているのかもしれませんが。今回は、ホスピタリティという観点から、レクの現場をレポート。レクリエーションの新しい切り口を探します。

ギブアンドテイクの関係を超えて。

看護師／エッセイスト 宮子あずさ さん

20年以上、看護の現場に身を置き、さまざまな人の生老病死に立ち会いながら、その実感をエッセイとして綴っている宮子あずささん。

ホスピスの看護師長まで務めながら近年退職され、現在は、訪問看護のアルバイトをしつつ、大学院で看護学を学び直しています。

看護とは何か？を考え続けている宮子さんに、今号のテーマ「ホスピタリティ」についてお話をうかがいました。

人間って、ワクがないと、満足もないんです。



———ホスピタリティという言葉インターネットで検索すると、おもてなし、心遣い、誠実さ、満足というようなキーワードが出てきます。でも、人の生き死にに直面している医療の現場では、ホスピタリティを提供するのは難しいことなのではないでしょうか？

そうですね。病院にいらっしゃる患者さんというのは、私たち看護師に「やってほしいこと」が山ほどあるんです。具体的なお世話から、それこそ話し相手になってほしいというようなことまで。だから、どこで線を引くかということが、とても大切になってきます。

これは私の看護師としての原体験のようなエピソードなのですが、まだ看護師になりたてのころ、足のしびれが強くて、マッサージを要求し続ける方がいらしたんです。今の看護の体制では考えられないことなのですが、看護師が入れ替わり立ち替わりマッサージをし、長い時は22時間くらい行ったでしょうか。でも、この患者さんは結局満足してくださらなかった。残りの2時間、マッサージをしてくれないことに不満だったんです。一種の強迫神経症だったのかもしれませんが、この体験は私にとってとても心に残りました。満足のいくケアができなかった悔しさとともに、ケアをする時間の長さが、即満足にはつながらない、ということを身にしみて考えさせられたんです。

———それは、患者さんの要求に応えるだけがホスピタリティじゃない、ということでしょうか？

ええ、人が満足するにはある程度のワクが必要だと思います。私はホスピスの看護師長をやっていたんですが、そういうところに入ってくる若い看護師たちって、心優しいスタッフばかりなんです（笑）。放っておくと1日中でも背中をさすってあげちゃうような子がいっぱいいるので、「長ければいいわけじゃないから、時間を決めてやりなさい」ということを口を酸っぱくして言い続けていましたね。時間を決めて、約束して、約束を守るということで、患



「その人らしさ」を受け入れられないこともある。

者さんも看護師も満足していく。そうしたワクというか制限がないと人間の欲は果てしなく広がります。時には、何かをしない、放っておく、という距離感が、必要な場合もあります。

———患者さんの要求を拒否するというのは、難しいことではないですか？

そうなんです。これも私にとってすごく印象的なエピソードなんですけど、実は私、自分は男だからといばる患者さんが好きになれないんですね。ある時そんな70代の男性がいて。心の底から腹が立ったことがありました。

その方は手足が思うように動かず、自分で立つこともできない。それなのにオシッコをするときは、トイレに行つて（男らしく）立ってやりたいって言ってきかないんです。それで、車椅子に乗せて、トイレに連れていって、苦勞して立たせて、しかも後ろから手を回しておちんちんを支えてさせてあげて。そんなことをしているうちに、「なんでこんなことしなくちゃいけないのか！」ってすごく腹が立った。でもなぜか、それをしてあげてしまっていたんです。

その患者さんはその後の人生、どっちにしろ立ってオシッコはできなくなる。本当に患者さんのことを考えたら、立ってしたいという要望を拒否して、「座ったままする練習をしなさい」と言うのも正しいことです。でも、それができなかったのは、そんなにも嫌いな患者さんであっても、私たち看護師は、患者さんの「その人らしさに寄り添わなくちゃいけない」という思い込みがあったからなんです。その患者さんの「男らしさへのこだわり」が、その人らしさなんだから、それに寄り添うことが看護師の役目なんだと。

今の気持ちを言葉にすれば、その人らしさに寄り添おうとしても、心からそうできない場合もあるという、「覚悟」。これも看護師には必要なんです。

———患者さんの要望に寄り添うだけが看護ではない、ということですね。

そう。これを言うのは勇気がいりますけどね。そもそも看護って、サービスとして考えた場合、とても特殊なサービスです。ふつうのサービスなら、お金を出した分だけ、濃厚なサービスを受けるでしょう？

ところが病院というところは、そんな経済原理が働かない場所なんです。

高いお金を払っても、せいぜい良い個室に入れるぐらいで、ナースコールは鳴った順番に応じていくし、お金を払ったからって優先的にされる、ということはない。そして、お金を払ったからって病気が治るというわけではありません。

不条理を感じることも、すごくたくさんあります。元気なうちは家族想いだったお父さんが、病気が長引いて家族

に迷惑をかけて嫌われながら亡くなったり、逆に、元気なうちは嫌われていたお父さんが、ポックリ亡くなったために惜しまれたり、ということもあるんですから。

病院というところは、超不条理であり、超平等なところなんです。

———そんな中で、看護師の方々は、何をよりどころにしたらいいのでしょうか？

私は最近「気前良さ」じゃないかって思ってるんです。「気前良さ」———、良い言葉でしょ（笑）？

今、大学院の卒業論文で、そのことについて書いているんですが、フランスの哲学者・サルトルの本の中に、「気前良さ」に近い言葉で「ジェネロジテ」という言葉を見つけたんです。「ジェネロジテ」とは「高邁な心」を指していて、「寛大、高貴、贈り物、潔い」というような意味を含んだ言葉です。つまり、見返りを求めず与える潔さ、とでも言ったらいいのでしょうか。

看護師たちは常に、誰かのために何かをし続けなければなりません。でも、超不条理で超平等な中にいると、自分の意味を見失ってしまい、やめていってしまう人も多いんです。そんな看護師にとって、「気前の良さ」や「ジェネロジテ」という言葉が、看護師の存在意義を取り戻し、看護師と患者の関係を見つめ直すきっかけになると思います。

そして、看護や福祉に携わる方々がホスピタリティを提供し続けるためにも、そんな「気前の良い」優しさが必要とされているのではないのでしょうか。

（取材：原健二郎 写真撮影：田中均明）

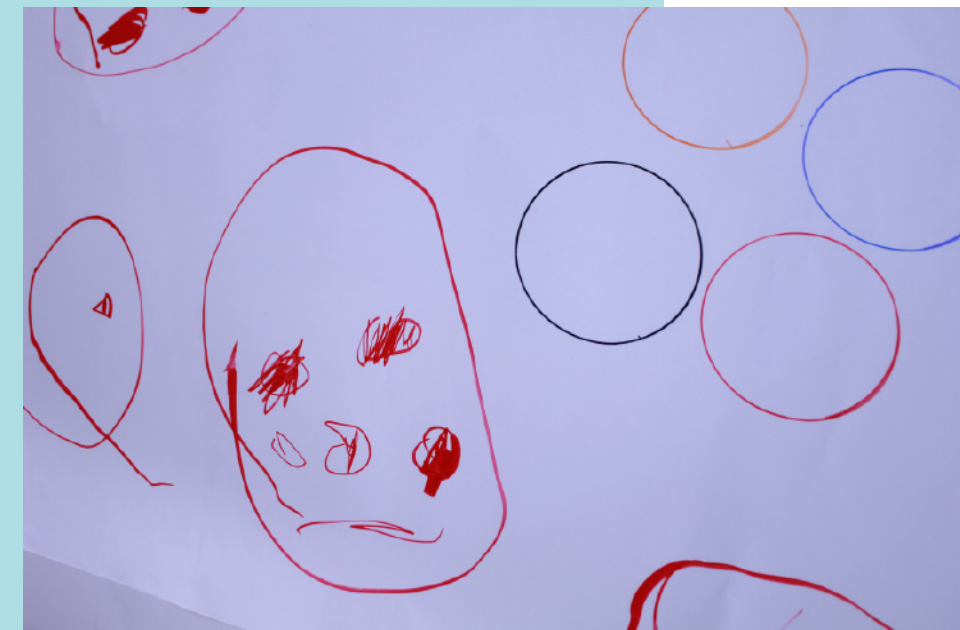
宮子あずさ（みやこ・あずさ）

看護師の現場で働きながら、看護の現状を本音で語るエッセイが人気。東京厚生年金病院に22年勤務し、内科、精神科、緩和ケアなどの病棟を経験。看護師長も7年務めている。現在は大学院博士課程で学びながらパート看護師として勤務。主な著書に、『看護婦が見つめた人間が病むということ』（講談社文庫）、『看護師専用お悩み外来』（医学書院）、『ナースな言葉』（集英社文庫）など多数。

看護師に求められるのは「気前良さ」。

子どもの課題や保護者のニーズに合わせた「丁寧なサポート」が魅力の、発達支援施設ホーミーズ。

今年4月、自閉症・アスペルガー症候群・知的障がい・学習障がいなど、いわゆる「発達障がい」を抱える子どもたちをサポートするため、東京都中野区初の発達支援施設「ホーミーズ」が開設されました。一見、障がいをもっているとは思えない子どもたち。悩みながらも育児に励むご家族。その両方と正面から向き合い、サポートするホーミーズの「ホスピタリティ」取材してきました。



男の子が描いた絵。人の顔かな？



計算をがんばる小学生コースの女の子。

発達障がいをもつ子どもたちの「放課後」を支援したい。

「ホーミーズという名前は、home（家）とease（心地よさ）という言葉を組み合わせた造語で、『家庭のような心地よさを提供する』という思いが込められています」

そう話すのは、ホーミーズの副理事長で教室長も兼務する合田（ごうだ）さんです。合田さんは教師として200人以上の支援が必要な子どもたちやその保護者と向き合い、指導してきた方。当時、保護者から「放課後に行くところがない」という相談を何度となく受け、支援施設の必要性を強く感じていたのだとか。

「発達障がいなど支援を要する子どもたちには、それぞれとても強い個性があります。それは、例えばコミュニケーションという面ではまったく問題はないのに、単純な引き算に課題があったり、曲を一度聴いただけで演奏できてしまうのに、人と話すことが難しかったりと、長所と課題が非常にはっきりしているということなのです。ほとんど健常の子と変わらないのに、学校を出たら行くところがないなんておかしい、という思いは常にありました」

そんな合田さんがホーミーズの立ち上げに加わったのは、25年以上教員として勤めたキャリアを買われ、現理事長から誘われたことがきっかけだったそうです。「現在うちに勤めているスタッフはみんな理事長に誘われ

